

令和5年度愛知県公立高等学校入学者選抜の実施結果

※（ ）内は令和4年度入学者選抜の数値。ただし、制度の変更に伴い、単純に比較することが難しい数値についても、参考として記載している。

〈 全 日 制 課 程 〉

1 推薦選抜

学科別合格者数等

学 科	志願者数 (A)	合格者数 (B)	B/A ×100	昨 年	
				志願者数	合格者数
普 通	6,411人	4,063人	63.4%	4,870人	3,492人
内 学年制	6,287	3,939	62.7	4,826	3,449
内 単位制	124	124	100.0	44	43
農 業	351	350	99.7	351	342
工 業	1,280	1,117	87.3	1,214	1,067
商 業	1,323	1,132	85.6	1,116	1,023
水 産	113	80	70.8	92	75
家 庭	368	328	89.1	355	308
看 護	43	38	88.4	51	40
福 祉	37	37	100.0	45	44
理 数	51	32	62.7	48	28
体 育	101	60	59.4	73	60
音 楽	46	36	78.3	46	32
美 術	48	14	29.2	52	14
外 国 語	10	10	100.0	12	12
国際関係	117	64	54.7	83	65
総 合	1,595	1,390	87.1	1,368	1,184
合 計	11,894人	8,751人	73.6%	9,776人	7,786人

2 特色選抜

(1) 実施校 77 校 1 校舎 113 学科

(2) 面接に加えて行う入学検査

ア 作文	16 校 1 校舎	24 学科
イ 基礎学力検査	37 校	60 学科
ウ プレゼンテーション	23 校	27 学科
エ 特別検査（実技試験）	2 校	2 学科

(3) 学科別合格者数等

学 科	志願者数 (A)	合格者数 (B)	B/A ×100
普 通	390人	317人	81.3%
農 業	143	117	81.8
工 業	209	187	89.5
商 業	298	238	79.9
水 産	7	1	14.3
家 庭	36	33	91.7
看 護	—	—	—
福 祉	19	18	94.7
理 数	2	2	100.0
体 育	38	23	60.5
外 国 語	—	—	—
国際関係	5	1	20.0
総 合	103	98	95.1
合 計	1,250人	1,035人	82.8%

3 外国人生徒等にかかる入学者選抜

学 校	学 科	志願者数	合格者数	昨 年	
				志願者数	合格者数
県立名古屋南高等学校	普 通	8人	2人	11人	3人
県立小牧高等学校	普 通	0	0	1	1
県立東浦高等学校	普 通	5	5	4	4
県立衣台高等学校	普 通	14	14	13	11
県立安城南高等学校	普 通	11	5	6	4
県立御津あおび高等学校	普 通	3	3	—	—
県立豊田工科高等学校	工 業	0	0	0	0
県立豊川工科高等学校	工 業	1	1	0	0
県立中川青和高等学校	キャリアビジネス	13	11	9	6
県立岩倉総合高等学校	総 合	5	3	8	4
県立知立高等学校	総 合	4	3	1	1
県立豊橋西高等学校	総 合	9	7	9	8
合 計		73人	54人	62人	42人

※ 定員は、当該高等学校・学科の募集人員の5%程度まで。

4 全日制単位制高等学校にかかる入学者選抜

学 校	学 科	志願者数	合格者数	昨 年	
				志願者数	合格者数
県立守山高等学校	普 通	9人	9人	6人	6人
県立幸田高等学校	普 通	10	10	6	6
県立御津あおび高等学校	普 通	4	3	—	—
県立中川青和高等学校	キャリアビジネス	10	8	—	—
合 計		33人	30人	12人	12人

※ 定員は、当該高等学校・学科の募集人員の5%程度まで。

5 連携型中高一貫教育校にかかる入学者選抜

学 校	学 科	志願者数	合格者数	昨 年	
				志願者数	合格者数
県立福江高等学校	普 通	29人	29人	30人	30人
県立新城有教館高等学校 作 手 校 舎	人と自然	2	2	2	2
県立田口高等学校	普 通	13	13	9	9
	林 業	4	4	8	8
合 計		48人	48人	49人	49人

6 一般選抜

(1) 募集人員 32,002 人 (41,991 人)

(2) 志願者数

志願者総数 (第1志望者数と第2志望者数の合計) 59,129 人 (74,324 人)

志願者実数 (第1志望者数) 32,996 人 (42,246 人)

2校志願者 26,133 人 (志願者実数の 79.2 % (75.9 %))

1校志願者 6,863 人 (10,168 人)

(3) 倍率

募集人員に対する倍率 1.85 倍 (1.77 倍)

実質倍率 (志願者実数による倍率) 1.03 倍 (1.01 倍)

(4) 学科別の志願者数等

学 科	募集人員	第 1 志望者数	内 海外帰国 生徒選抜	第 2 志望者数	志 願 者 総 数	倍率	昨年 倍率
農 業	687	532	—	356	888	1.29	1.32
工 業	3,015	2,571	—	1,888	4,459	1.48	1.52
商 業	1,611	1,456	—	1,284	2,740	1.70	1.53
水 産	79	82	—	39	121	1.53	1.40
家 庭	559	444	—	277	721	1.29	1.29
看 護	42	74	—	10	84	2.00	1.83
福 祉	105	46	—	61	107	1.02	1.08
理 数	86	117	—	59	176	2.05	2.02
体 育	37	82	—	12	94	2.54	1.12
音 楽	44	24	—	17	41	0.93	1.31
美 術	26	79	—	1	80	3.08	2.38
外 国 語	30	30	2	37	67	2.23	2.43
国際関係	95	168	12	41	209	2.20	1.42
総 合	2,019	2,009	—	1,700	3,709	1.84	1.59
合 計	32,002人	32,996人	33人	26,133人	59,129人	1.85	1.77

(5) 倍率の高い学校・学科数

3倍以上 9校 11学科 (4校 4学科)

2.5倍以上3倍未満 12校 12学科 (9校 9学科)

(6) 倍率が1倍に満たない学校・学科数 17校 19学科 (8校 11学科)

- (7) 志願変更者数 58 人 (51 人)
 (8) 学力検査当日の欠席者数
 260 人 (Aグループ 324 人、Bグループ 342 人)
 (9) 追検査受検者数
 80 人 (Aグループ 55 人、Bグループ 51 人)
 (10) 特別の追検査受検者数
 0 人 (77人)
 (11) 学科別・志望順位別の合格者数等

学 科	第1志望 合格者数	第2志望 合格者数	合 計	第1志望 合格者の 占める割合	昨 年 の 第1志望合格者 の占める割合
普 通	16,513人	5,948人	22,461人	73.5%	77.3%
農 業	479	61	540	88.7	93.9
工 業	2,207	321	2,528	87.3	92.3
商 業	1,102	313	1,415	77.9	89.9
家 庭	366	32	398	92.0	95.7
福 祉	46	10	56	82.1	92.7
総 合	1,537	343	1,880	81.8	89.2
そ の 他	347	58	405	85.7	93.2
合 計	22,597人	7,086人	29,683人	76.1%	81.8%

※ 第1志望合格者数には、海外帰国生徒にかかる入学者選抜の合格者数を含む。

- (12) 合格者の学力検査得点の平均 (満点110点)

国語 (得点率)	数学 (得点率)	社会 (得点率)	理科 (得点率)	外国語 (得点率)	合計 (得点率)	昨年の合計 (得点率)	
						A	B
14.9点 (67.7%)	15.2点 (69.1%)	11.7点 (53.2%)	12.5点 (56.8%)	12.8点 (58.2%)	67.2点 (61.1%)	63.0点 (57.3%)	68.3点 (62.1%)

7 海外帰国生徒にかかる入学者選抜

学 校	学 科	志願者数	合格者数	昨 年	
				志願者数	合格者数
県立昭和高等学校	普 通	4人	4人	—	—
県立中村高等学校	普 通	2	2	0人	0人
県立豊田西高等学校	普 通	10	7	5	5
県立岡崎西高等学校	普 通	1	1	—	—
県立豊橋東高等学校	普 通	2	1	3	3
市立名東高等学校	国際英語	2	2	4	3
県立千種高等学校	国際教養	11	11	22	22
県立刈谷北高等学校	国際探究	1	1	9	9
合 計		33人	29人	43人	42人

※ 定員は、普通科は当該高等学校・学科の募集人員の10%程度まで、専門学科は当該高等学校・学科の募集人員の30%程度まで。

※ 県立刈谷北高等学校は、昨年度まで国際教養科で実施。

8 第2次選抜

募集人員 67 校 1 校舎 95 学科 2,339 人
(72 校 1 校舎 100 学科 2,734 人)
志願者数 34 校 38 学科 75 人
(25 校 26 学科 36 人)
合格者数 74 人 (36 人)

9 欠員数 2,267 人 (2,675 人)

〈 定 時 制 課 程 〉

1 志願者数等

- (1) 募集人員・志願者数・合格者数
 募集人員 2,020 人 (1,960 人)
 昼間 780 人 (720 人)
 夜間 1,240 人 (1,240 人)

前期選抜	昼 夜	前期選抜 定員枠	志願者数	合格者数	昨 年	
					志願者数	合格者数
	昼 間	624人程度	791人	655人	790人	630人
	夜 間	992	795	728	785	729
	合 計	1,616人程度	1,586人	1,383人	1,575人	1,359人

※ 前期選抜の定員枠は8割程度。

後期選抜	昼 夜	後期選抜 募集人員	志願者数	合格者数	昨 年	
					志願者数	合格者数
	昼 間	127人	103人	72人	89人	59人
	夜 間	512	127	111	119	106
	合 計	639人	230人	183人	208人	165人

- (2) 募集人員に満たなかった学校・学科
 前期選抜 20 校 22 学科 (21 校 23 学科)
 後期選抜 28 校 32 学科 (26 校 29 学科)

- (3) 欠員数 457 人 (436 人)

- (4) 学科別・昼夜別倍率

前期選抜	昼夜 \ 学科	普 通	工 業	商 業	総 合	合 計	昨年の合計
		昼 間	1.34	—	—	1.00	1.27
	夜 間	0.87	0.74	0.59	—	0.80	0.79
	合 計	1.07	0.74	0.59	1.00	0.98	1.00

後期選抜	昼夜 \ 学科	普 通	工 業	商 業	総 合	合 計	昨年の合計
		昼 間	0.96	—	—	0.44	0.81
	夜 間	0.29	0.18	0.20	—	0.25	0.23
	合 計	0.45	0.18	0.20	0.44	0.36	0.35

※ 前期選抜は定員枠を8割程度としているため、倍率は程度である。

2 入学検査

- (1) 作文及び面接を実施した学校・学科
 30 校 36 学科 (全校・全学科) (29 校 35 学科 (全校・全学科))
- (2) 基礎学力検査を実施しない学校・学科
 前期選抜 8 校 8 学科 (8 校 8 学科)
 後期選抜 10 校 10 学科 (10 校 10 学科)
- (3) 基礎学力検査を実施した学校・学科
 前期選抜 23 校 28 学科 (22 校 27 学科)
 後期選抜 21 校 26 学科 (20 校 25 学科)

〈 通 信 制 課 程 〉

1 志願者数等

学 科	募集人員	志願者数		合格者数		昨 年	
						志願者数	合格者数
普 通	約600人	前期選抜	340人	前期選抜	333人	283人	277人
		後期選抜	116	後期選抜	113	118	114
		転編入学	356	転編入学	350	305	301
		合 計	812人	合 計	796人	706人	692人

2 入学検査

前期選抜、後期選抜ともに学力検査、作文を行わず、面接を実施。

(参考1) 長期欠席者等にかかる選抜方法

	申請者数 (延べ人数)	合格者数 (実人数)	昨 年	
			申請者数	合格者数
全日制課程	131人	76人	129人	73人
定時制課程	148	127	182	149
通信制課程	24	23	31	31

(参考2) 定時制課程における外国人生徒等にかかる受検上の配慮

昼 夜	申請者数		合格者数		昨 年			
					申請者数		合格者数	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
昼 間	53人	8人	41人	7人	36人	3人	22人	3人
夜 間	103	18	93	17	95	13	92	13
合 計	156人	26人	134人	24人	131人	16人	114人	16人

令和5年度愛知県公立高等学校推薦選抜に関する調査結果

I 調査対象 公立高等学校 156 校 1 校舎

II 調査時期 令和5年4月

III 調査結果の概要

1 志願者数等

学 科		普通	農業	工業	商業	水産	家庭	看護	福祉
総募集人員 A	令和5年度	28,040	1,160	4,320	3,000	160	920	80	160
	令和4年度	28,280	1,160	4,320	3,040	160	880	80	160
志願者数	令和5年度	6,411	351	1,280	1,323	113	368	43	37
	令和4年度	4,870	351	1,214	1,116	92	355	51	45
合格者数 B	令和5年度	4,063	350	1,117	1,132	80	328	38	37
	令和4年度	3,492	342	1,067	1,023	75	308	40	44
B/A ×100(%)	令和5年度	14.5	30.2	25.9	37.7	50.0	35.7	47.5	23.1
	令和4年度	12.3	29.5	24.7	33.7	46.9	35.0	50.0	27.5

学 科		理数	体育	音楽	美術	外国語	国際関係	総合	合計
総募集人員 A	令和5年度	120	120	80	40	40	160	3,520	41,920
	令和4年度	120	120	80	40	40	200	3,360	42,040
志願者数	令和5年度	51	101	46	48	10	117	1,595	11,894
	令和4年度	48	73	46	52	12	83	1,368	9,776
合格者数 B	令和5年度	32	60	36	14	10	64	1,390	8,751
	令和4年度	28	60	32	14	12	65	1,184	7,786
B/A ×100(%)	令和5年度	26.7	50.0	45.0	35.0	25.0	40.0	39.5	20.9
	令和4年度	23.3	50.0	40.0	35.0	30.0	32.5	35.2	18.5

2 選抜基準別の合格者数

(1) 全学科

基 準		学習成績	運動・文化・芸術・奉仕など	環 境
人数	令和5年度	3,050	5,298	403
	令和4年度	2,467	4,933	386
割合 (%)	令和5年度	34.9	60.5	4.6
	令和4年度	31.7	63.3	5.0

総募集人員に対する環境推薦の割合は 1.0 % (令和4年度 0.9 %) である。

(2) 普通科

基 準		学習成績	運動・文化・芸術・奉仕など	環 境
人数	令和5年度	1,036	2,843	184
	令和4年度	827	2,503	162
割合 (%)	令和5年度	25.5	70.0	4.5
	令和4年度	23.7	71.7	4.6

(3) 専門学科及び総合学科

基 準		学習成績	運動・文化・芸術・奉仕など	環 境
人数	令和5年度	2,014	2,455	219
	令和4年度	1,640	2,430	224
割合 (%)	令和5年度	43.0	52.4	4.7
	令和4年度	38.2	56.6	5.2

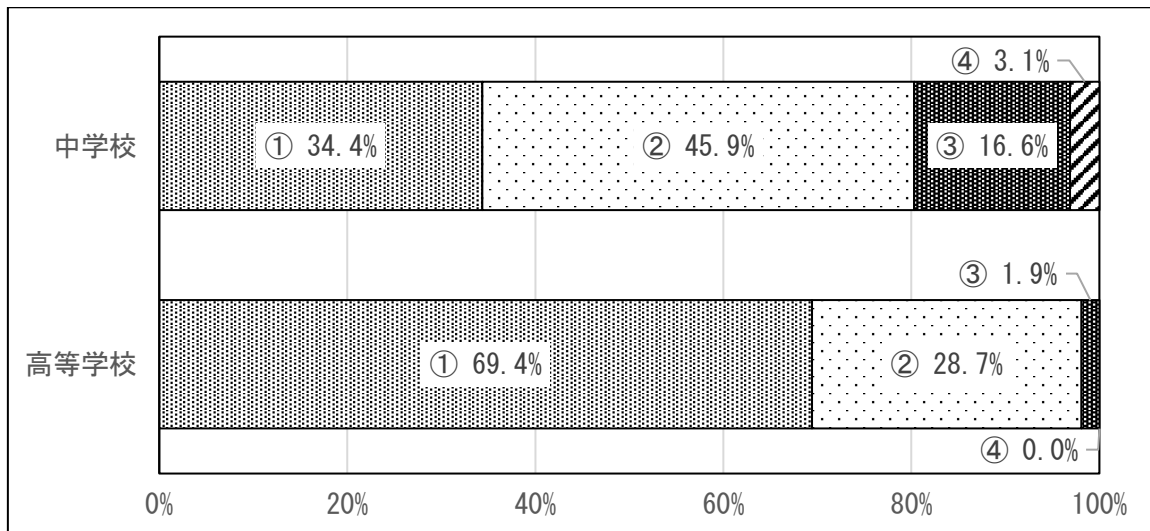
新しい入学者選抜制度に関するアンケート結果

実施時期 令和5年3月

実施対象 公立中学校 416校及び公立高等学校 157校の校長

質問1 一般選抜の学力検査の回数を2回から1回にしたこと及び解答用紙をマークシートにしたことについて

- ①よい ②どちらかと言えばよい
③どちらかと言えばよくない ④よくない



	①	②	③	④	無答	合計
中学校	143校 34.4%	191校 45.9%	69校 16.6%	13校 3.1%	0校 0.0%	416校
高等学校	109校 69.4%	45校 28.7%	3校 1.9%	0校 0.0%	0校 0.0%	157校

自由記述における主な意見

中学校

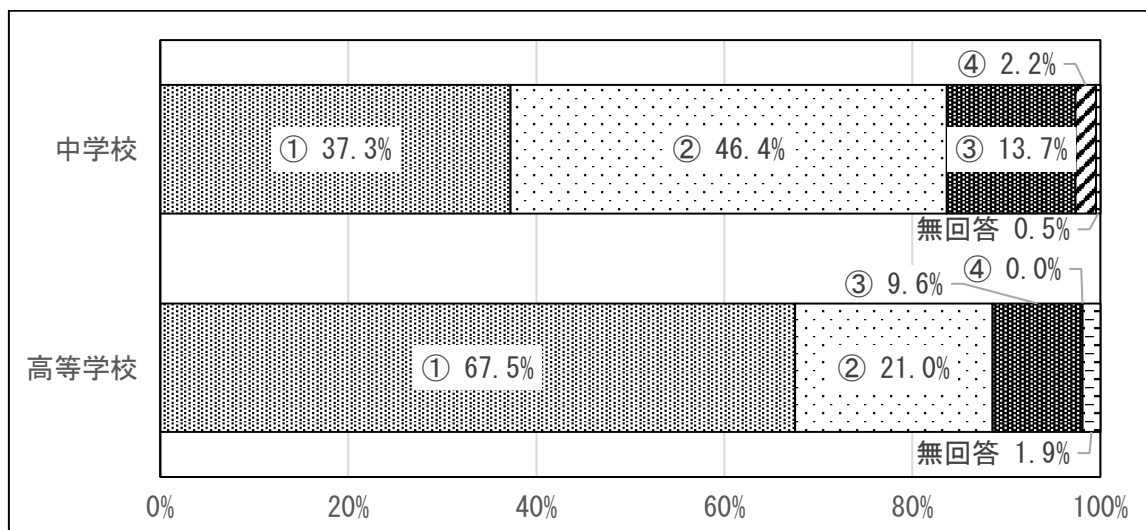
- ・学力検査が1回になり、生徒の負担が軽減された。(108)
- ・学習指導要領において育むこととされている力が、適切に評価されているか心配である。(67)
- ・学力検査が1回となり、失敗すると第2志望校も不合格となるおそれがある。(45)
- ・生徒のマークミス等により、実力が正確に点数に反映されないおそれがある。(42)

高等学校

- ・入試業務の負担が軽減された。(26)
- ・受検生の学力を適切に測ることができるよう、出題を一層工夫する必要がある。(20)

質問2 一般選抜における調査書の評定得点と学力検査合計得点の比率（校内順位の設定方式）を5通りとしたことについて

- ①よい ②どちらかと言えばよい
③どちらかと言えばよくない ④よくない



	①	②	③	④	無答	合計
中学校	155 校 37.3 %	193 校 46.4 %	57 校 13.7 %	9 校 2.2 %	2 校 0.5 %	416 校
高等学校	106 校 67.5 %	33 校 21.0 %	15 校 9.6 %	0 校 0.0 %	3 校 1.9 %	157 校

自由記述における主な意見

中学校

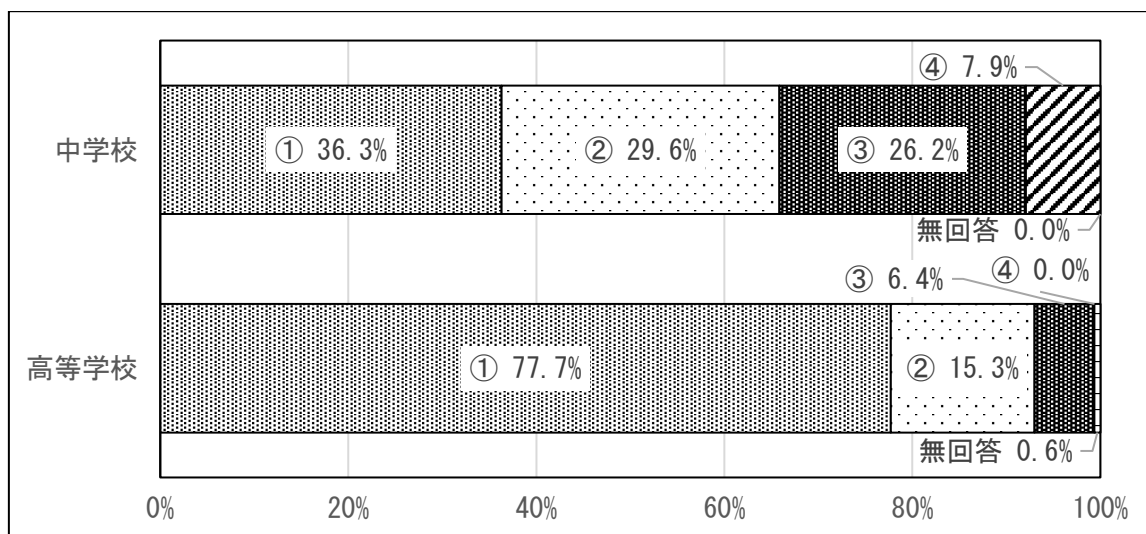
- ・高等学校の特色や求める生徒像が、より分かりやすくなった。(70)
- ・中学校における学習の成果を表した調査書よりも、学力検査の得点を重視する傾向が強まった。(31)

高等学校

- ・これまでよりも学校の特色が出せるようになった。(48)
- ・受検生が学校の実情とは異なるイメージを抱くおそれがある。(8)

質問3 一般選抜における面接の有無を、各高等学校の裁量としたことについて

- ①よい ②どちらかと言えばよい
③どちらかと言えばよくない ④よくない



	①	②	③	④	無答	合計
中学校	151 校 36.3 %	123 校 29.6 %	109 校 26.2 %	33 校 7.9 %	0 校 0.0 %	416 校
高等学校	122 校 77.7 %	24 校 15.3 %	10 校 6.4 %	0 校 0.0 %	1 校 0.6 %	157 校

自由記述における主な意見

中学校

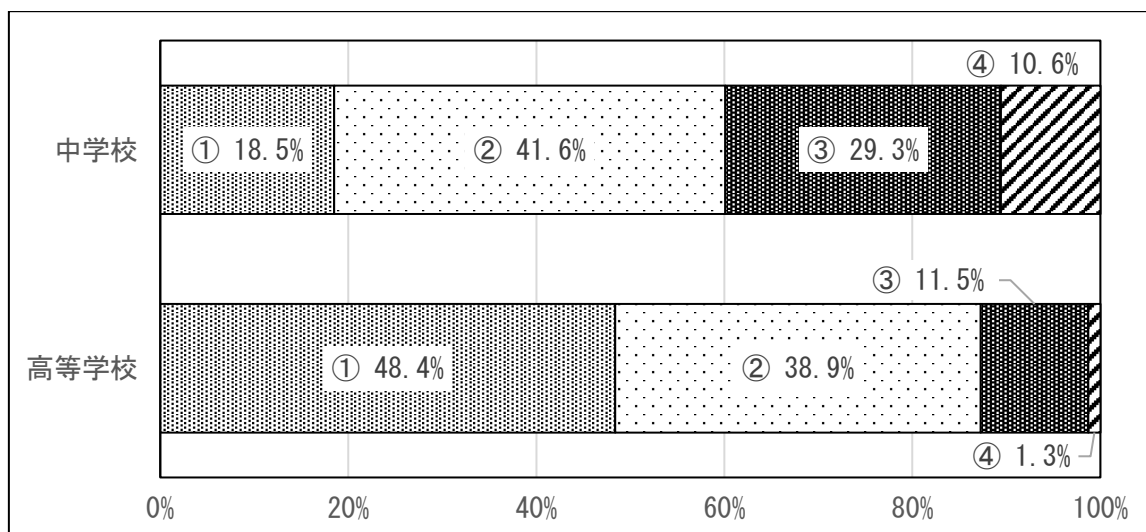
- ・生徒と教員の負担が軽減された。(40)
- ・さらに負担を軽減するため、一般選抜の面接は廃止してもよい。(27)
- ・高校入試では、生徒が面接を経験することや、学力だけでなく人物について評価することも大切なので、面接は全校で実施してほしい。(73)

高等学校

- ・受検生と学校の双方にとって負担が軽減された。(17)
- ・学校の特色が出せるようになった。(16)

質問4 「特色選抜」を新たに設けたことについて

- ①よい ②どちらかと言えばよい
③どちらかと言えばよくない ④よくない



	①	②	③	④	無答	合計
中学校	77 校 18.5 %	173 校 41.6 %	122 校 29.3 %	44 校 10.6 %	0 校 0.0 %	416 校
高等学校	76 校 48.4 %	61 校 38.9 %	18 校 11.5 %	2 校 1.3 %	0 校 0.0 %	157 校

自由記述における主な意見

中学校

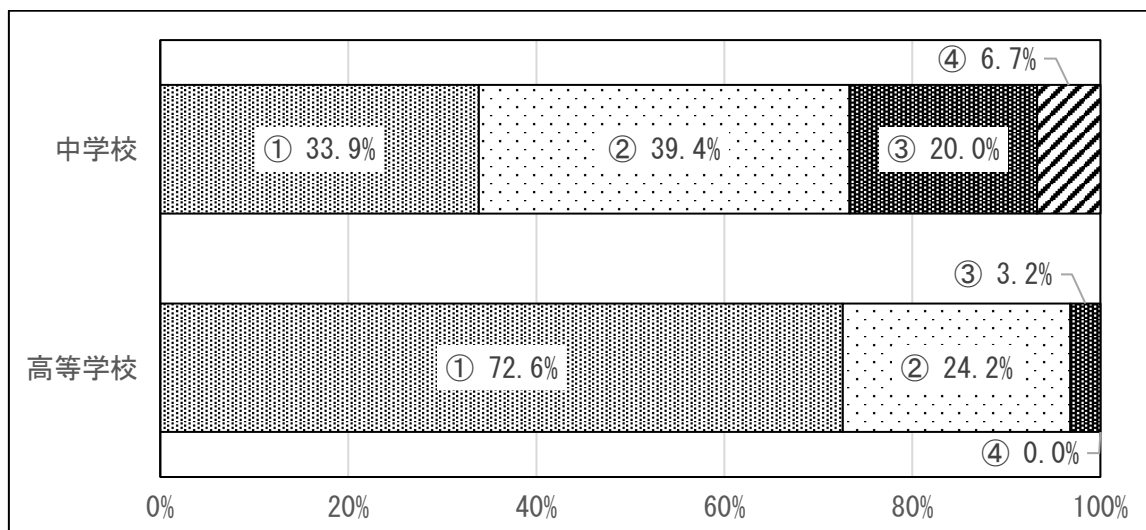
- ・その高等学校でぜひ学びたいという生徒の意欲が評価される選抜が増えたことは評価できる。(59)
- ・同じ高等学校でも推薦選抜と特色選抜では求められるものが異なり、生徒や保護者への説明が難しい。(106)

高等学校

- ・これまでよりも多様な観点からの選抜が可能になった。(21)
- ・入学検査の方法等に関して学校の裁量の範囲を広げてほしい。(6)

質問5 推薦選抜等の日程を一般選抜よりも早い時期としたこと及び推薦選抜の志願者には学力検査を課さないこととしたことについて

- ①よい ②どちらかと言えばよい
③どちらかと言えばよくない ④よくない



	①	②	③	④	無答	合計
中学校	141 校 33.9 %	164 校 39.4 %	83 校 20.0 %	28 校 6.7 %	0 校 0.0 %	416 校
高等学校	114 校 72.6 %	38 校 24.2 %	5 校 3.2 %	0 校 0.0 %	0 校 0.0 %	157 校

自由記述における主な意見

中学校

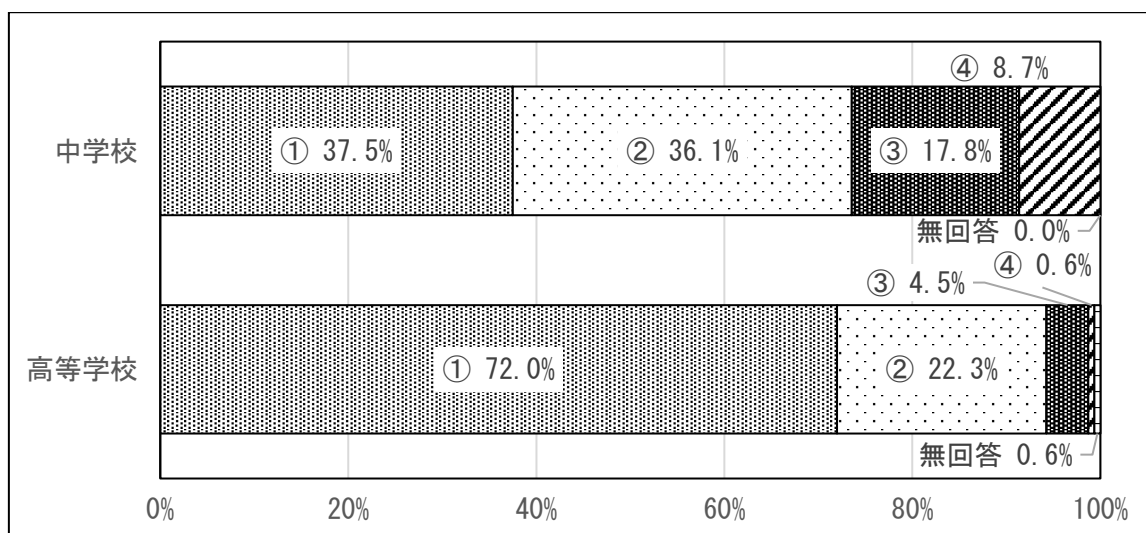
- ・推薦選抜等で不合格になっても一般選抜で再チャレンジできる。(25)
- ・推薦選抜の合格者発表から一般選抜の出願までの期間が短い。(39)
- ・昨年度までと同様に、推薦選抜等と一般選抜を同じ日に実施することが望ましい。(17)

高等学校

- ・推薦選抜の志願者には学力検査を課さなくなったことで、推薦選抜と一般選抜の違いが明確になった。(18)

質問6 一般選抜の日程を約2週間早め、第2次選抜や通信制課程後期選抜を含めた公立高校入試が3月25日頃までに終わるようにしたことについて

- ①よい ②どちらかと言えばよい
③どちらかと言えばよくない ④よくない



	①	②	③	④	無答	合計
中学校	156校 37.5%	150校 36.1%	74校 17.8%	36校 8.7%	0校 0.0%	416校
高等学校	113校 72.0%	35校 22.3%	7校 4.5%	1校 0.6%	1校 0.6%	157校

自由記述における主な意見

中学校

- ・ゆとりを持って新年度に向けた準備ができた。(51)
- ・授業や学校行事等の日程がタイトになり、生徒や教員の負担が増加した。(54)

高等学校

- ・ゆとりを持って新年度に向けた準備ができた。(13)
- ・入試以外の業務や在校生の大学受験指導と日程が重なり、慌ただしかった。(8)

質問7 その他、御意見やお考えがありましたら、お書きください。

中学校

- ・出願の時期が早まったため、調査書を12月末時点で作成したことにより、3学期の生徒の学習意欲や出欠に影響が出た。(22)
- ・入試日程は、中学校教育や私立高校等の入試日程を十分に考慮して定める必要がある。(16)

高等学校

- ・情報処理システムの使い勝手等を改善する必要がある。(57)